

創設の思い引き継ぐ

群馬
栃木

「まついだ森の家」存続へ

管理者らスタッフの高齢化のため存続が危ぶまれたバリアフリーペンション「まついだ森の家」（安中市松井町）に若手の後継者三人が現れ、存続に向けて取り組んでいる。障害者の親や福祉関係者が開設して二十四年。新型コロナウイルスの影響で臨時休業を余儀なくされ、再開後も苦境が続くが「力を合わせ、創設時の思いを大切に引き継ぎたい」と前を見据える。



「力を合わせ継承していく」と話す高橋さん（中央前）や中村さん夫妻（左から2、3人目）と、3人を支えるNPO法人メンバーら＝安中市の「まついだ森の家」で

後継の3人「交流の場」

■難病の高橋さん
「障害のある人、ケアする人が安心してくつろげるのはもちろん、さまざまな立場の人が楽しく交流できる場になりたい」。継承するのは安中市の高橋貴子さん（26）、前橋市で生パスタ製麺・販売「コナリエ」を営む中村実紀さん（40）と会社員の知博さん（40）夫妻＝同市在住。コロナ禍の現状を「準備期間」と捉え、引き継ぎや研修を続ける。

現場スタッフの後継を募っていることを知り、今春応募した。高橋さんは難病で十代後半から闘病を続ける。リハビリを兼ね地元の障害者スポーツ団体などで活動する中で「交流の場」の大切さを痛感した。

■中村さん夫妻
その思いをくんだのが、同時期に応募した中村さん夫妻。実紀さんは二十年間、病気で倒れた母親の在



木々に包まれる「まついだ森の家」＝安中市で

宅介護を続けた。会社に勤めながら毎日の食事を用意した。七年前に起業したのも「愛のある食事のお手伝いがしたい」「毎日の家で食事の大切にしてほしい」との思いからだ。母親との旅行も難しく、たことを振り返り、森の家存続に「できることがあれば」と名乗り出た。高橋さんや森の家関係者と相談し、共に運営に取り組む。森の家は一九九六年、横浜市に住む障害者の家族や期待を込めた。

■本格再開へ準備
存続を願う利用者の声を受け、スタッフ一人が当面の対応として素泊まり限定で続けたが、コロナの影響で春は臨時休業。六月の再開後も予約キャンセルが相次ぎ、利用者は例年の割に満たないという。

高橋さんは「常連の方や支援者から応援の手紙もいただき、励みになる。闘病体験も生かせると思う。設立時の思いを大切にさらに開かれた場所にした」。中村さん夫妻は「障害があってもなくても同じような立場で、みんなができる」とで参画し、食事やイベント、宿泊を楽しむフラットな場にした」と語る。

酒
見学できます
【土・日・休
無料開放中
※平日は要予約

ふるさと
東カ
アズマリキ

株式会社 島崎
那須崎市中央1丁目
TEL.0287(83)1
http://www.azumariki

群馬の天
きょう
沼田
前橋
太田

きょうの予想
降水確率
朝10% 昼10%
気温
最高37度 最低28度
北西日中南東の

栃木の天
きょう
大田原
宇都宮
小山

きょうの予想
降水確率
朝10% 昼20%
気温
最高36度 最低28度
南の風